

製品名: CBFb (14H12) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe08035**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:100-1:500,FC 1:50-1:200
分子量	22kDa

抗原情報

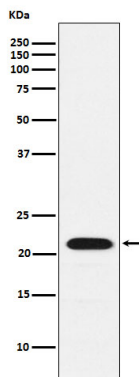
遺伝子名	CBFB
別名	CBFB; CBFbeta; PEA2; PEA2 beta; PEA2beta; PEBP2 beta; PEBP2B;
遺伝子 ID	865.0
SwissProt ID	Q13951
免疫原	ヒト CBFb の合成ペプチド

背景

CBF は、マウス白血病ウイルス、ポリオーマウイルスエンハンサー、T 細胞受容体エンハンサー、LCK、IL3、GM-CSF プロモーターなど、多数のエンハンサーとプロモーターのコアサイト 5'-PYGPGYGGT-3' に結合します。CBFB は RUNX1 による DNA 結合を強化します。RUNX ファミリータンパク質 (RUNX1、RUNX2、RUNX3) とヘテロ二量体複合体コア結合因子 (CBF) を形成します。RUNX メンバーは、その制御領域内のコアコンセンサス結合配列 5'-TGTGGT-3'、または非常にまれに 5'-TGCGGT-3' をラントドメインを介して認識することで、標的遺伝子の転写を調節します。一方、CBFB は DNA に結合しない制御サブユニットであり、RUNX の配列特異的 DNA 結合能力をアロステリックに強化します。ヘテロダイマーは、マウス白血病ウイルス、ポリオーマウイルスエンハンサー、T 細胞受容体エンハンサー、LCK、IL3、GM-CSF プロモーターなど、多数のエンハンサーおよびプロモーターのコア部位に結合します。CBF 複合体は、細胞傷害性 (CD8+) T 細胞の分化において ZBTB7B 転写因子を抑制します。CBF 複合体は ZBTB7B 遺伝子座内の RUNX 結合配列に結合し、転写サイレンサーとして機能し、細胞傷害性 T 細胞の分化を可能にします。

研究分野

画像データ



K562 細胞溶解物中の CBFb 発現のウエスタンブロット分析。